

1 題材 「ラヴィ先生と夏の思い出について話そう」

2 指導観

- グローバル社会が進展していく中で、日本でもコロナ禍の令和元年をピークに在留外国人は増加傾向にある。教育現場においても同様で、外国人児童生徒の数も10年間で1.5倍となっている。それに伴い、対話の際の言語においても日本語に限らず多様性が求められてきている。

本単元は、ALTとの仲をより深めるために、お互いの夏休みの思い出について対話をする事を通して、用意した内容をもとに、ALTの発言に対しての相づちや、聞き取った内容から関連する質問を用いながらやり取りを継続させることを狙いとしている。学習内容としては、be動詞の過去形の用法、一般動詞の過去形の用法、一般動詞の不規則変化、相手の発言に応じた受け答えや会話の促進の方法、関連した質問の方法などがある。本題材の学習を通して生徒は、夏休みにしたことについてALTと話をすることにより、過去の出来事についての表現方法を知ることができる。また、即興的なやり取りをすることにより、相づちや、相手の発言に応じた5W1Hの質問方法など、対話を継続するための方略について学ぶことができる。したがって、本題材を学習することは、相手の発言に応じて質問をしたり話題を発展させたりしながら、やり取りを継続する力を育成する上で大変意義深い。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本題材の指導にあたっては、ALTとの仲をより深めていくために、お互いの夏の思い出についてやり取りを行う中で、即興的なやり取りを継続させるために、相づちや、相手の発言に応じた5W1Hの質問方法などの方略について考える態度を養いたい。そのためにまず、前単元を振り返り、本単元の学習課題を確認させる。ここでは、プレゼン発表とやり取りの違いに気づかせるために、2つの動画を見せ、それぞれの立場を比較させる。次に、夏休みの思い出について話す内容を準備させる。ここでは、動詞の過去形の用法を把握させるために、週末の出来事に関する例文を提示する。また、やり取りの継続を意識させるために、これまでALTについて分かったことについて問う。さらに、ALTと夏休みの思い出についてやり取りを行わせる。ここでは、会話を継続・発展させるための方略に気付かせるために、班で動画を見て会話が止まった原因について交流させる。その際、交流時に出た、方略が有効であったかを確認させるために、やり取りの結果を評価シートに記入させる。最後に、夏休みの思い出についてやり取りする活動を振り返らせる。福岡の観光地の動画を作る活動を振り返る。ここでは、本題材での成果と課題を振り返らせるために、1回目と2回目のやり取りの動画を比較させ、工夫した点や変わった点を問う。

3 目標

- 動詞の過去形の用法や使用場面を把握し、それらを用いて、自身の夏休みの思い出について説明したり、相手の夏休みの思い出について質問したりすることができる。
- ALTとの仲を深めるために、ALTと夏休みの思い出についてやり取りをする活動について、対話を継続するために、相づちや、相手の発言に応じた質問をすることができる。
- ALTとの仲を深めるために、夏休みの思い出についてやり取りをする活動について、相づちや質問を用いながら対話を継続しようとする。

4 計 画 (10時間)

知:知識・技能 思:思考・判断・表現 態:主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価の観点
一	2	<p>1 前単元を振り返り,本単元の学習課題を確認する。</p> <p>(1) ALTへの人物紹介について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物紹介での成果と課題 <p>学習課題 ラヴィ先生と夏の思い出について話そう</p> <p>(2) 学習課題を把握し,今までの題材との相違点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンとやり取りの相違点 	<p>○ 自ら発信することの重要性に気づかせるために,会話をつなげるには何が必要かを問う。</p> <p>○ プレゼン発表とやり取りの違いに気づかせるために,2つの動画を見せ,それぞれの立場を比較させる。</p>	<p>態:動画から,やり取りの話者の立場について見出そうとしている。</p>
二	4	<p>2 夏休みの思い出について話す内容を準備する。</p> <p>(1) 夏休みの思い出について話したい項目を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話の展開を予想する必要性 <p>(2)~(4) 過去の出来事を伝える表現を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・be 動詞の過去形の用法 ・一般動詞の過去形の用法 ・一般動詞の不規則変化 	<p>○ ALTとのやり取りの継続を意識させるために,これまでの授業でALTについて分かったことについて問う。</p> <p>○ 動詞の過去形の用法を把握させるために,週末の出来事に関する例文を提示する。</p>	<p>思:ALTとの仲を深めるために,自身の夏休みの思い出から,ALTとやり取りが継続しそうな項目を挙げるができる。</p> <p>知:動詞の過去形の用法を把握することができる。</p>
三	3	<p>3 夏休みの思い出についてやり取りを行う。</p> <p>(1) ALTと夏休みの思い出についてやり取りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の発話に応じた,質問や応答の必要性 	<p>○ ALTとのやり取りで出た課題を把握させるために,やり取りの動画を記録する。</p>	
		<p>(2) 撮影した動画をもとにやり取りの課題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話を継続,発展させるための方略 	<p>○ 会話を継続・発展させるための方略に気付かせるために,動画を見ながら班で,会話が止まった原因について交流するよう促す。</p>	<p>思:ALTとの仲を深めるために整理した項目をもとにALTと夏休みの思い出についてやり取りすることができたか。</p>
		<p>(3) 交流で出た改善点をもとに,再度夏休みの思い出についてやり取りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の発話に応じた,質問や応答の有用性 	<p>○ 交流時に出た,方略が有効であったかを確認させるために,やり取りの結果を評価シートに記入するよう促す。</p>	
四	1	<p>4 夏休みの思い出についてやり取りする活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本題材での成果と課題 	<p>○ 本題材での成果と課題を振り返らせるために,1回目と2回目のやり取りの動画を比較させ,工夫した点や変わった点を問う。</p>	<p>態:本題材の成果と課題から,次の学習へ結びつけようとしている。</p>

5 本時 令和4年11月10日(木) 第4校時 計画 第三次の2 1年1組教室にて

(1) 主眼

- 録画したALTとのやり取りの動画を他の班員と交流、評価し合う活動を通して、やり取りを継続するための方略を把握することができる。

(2) 準備

- ①学習プリント ②生徒のやり取りの動画 ③やり取りの続きを考えるカード
- ④教師とALTのやり取りの動画 ⑤アイディアシート ⑥振り返りシート

(3) 過程

学習活動・内容	準備	段階	手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
<p>1 前時を振り返り、やりとりの課題について話し合う。</p> <p>・やり取りの課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Today's Goal お互いの動画を見て、やりとりの改善点を見つけよう。</p> </div>	①	I	○ やり取りの課題に気付かせるために、やり取りでつまづいた場面を共有する。	一斉	5
<p>2 動画を見て、やり取りが止まった原因と、解決のための方策を探る。</p> <p>(1) 自分の動画を見て、やり取りが止まった原因を探る。</p> <p>・やり取りを止めてしまう原因</p> <p>(2) 他の生徒の動画から、やり取りの続きを考える。</p> <p>・5W1Hを使った質問</p>	② ③	II	○ やり取りの課題を明確にさせるために、やり取りでつまづいた部分を抜き出させ、その原因を問う。	個	5
<p>3 録画した動画を班で見せ合い意見を交流する。</p> <p>アイディアシートをもとに班内で意見を交流する。</p> <p>・5W1Hの質問の有用性</p>	④ ⑤	III	○ やり取りを継続させる可能性に気付かせるために、やり取りが止まってしまった生徒の動画を視聴させ、止まった部分の次の発話を班で考えさせ、全体で共有する。	小集団 ↓ 一斉	15
<p>4 本時を振り返り、次の活動へ向けた改善点を把握する。</p> <p>・相手をよく知るための方略の必要性</p>			○ 会話を関連付けて継続させるには、5W1Hの質問が有効であることに気付かせるために、教師とALTのやり取りの動画を見せ今後の展開について問う。 ○ 自身の対話の目的を明確にさせるために、班で出たアイディアから一つを選択させ、その理由を問う。	小集団 ↓ 個	15
			◇ やり取りを継続するために、問い返しや、疑問詞の活用などの、必要な要素を記述することができたか。 <アイディアシート分析, 学習プリント分析>	個 ↓ 一斉	10

1 題材 「Attractions of the prefecture that we live in」

2 指導観

- 2022年6月に日本政府は条件付きで外国人観光客の受け入れを再開し、1日あたりの入国者数の上限を2万人に引き上げた。コロナ禍で大きな打撃を受けた日本の観光産業を復興させていくためにも、地元を含め日本の魅力を海外の方に発信し、日本へ誘致していくことが求められる。

本題材では、セブ島在住の海外の人に現在生徒が居住している福岡の魅力についてオンラインで紹介する活動を通して、地元のおすすめスポット等について相手の情報をもとにベネフィットをふまえて魅力的に伝えることができることをねらいとしている。学習内容としては、関係代名詞の用法や使用方法、相手に合わせた質問の有用性、紹介内容のベネフィットを説明する有用性、リモートでのアイコンタクトや発話方法などがある。本題材は、地元福岡の自分なりのおすすめスポットを考えることにより、自分の住んでいる地域の良さに改めて気づき、その魅力を実体験をもとにして英語で表現することができる。また、伝える相手がALTではなく今まで会ったことのない海外の人であることにより、相手のことを予想しながら地元福岡を魅力的に伝える方法を工夫することができる。以上のことから、本題材を学習することは、相手のバックグラウンドをもとに地元の良さについてオンライン上でより魅力的に伝える力を育成する上で意義深い。

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本題材の指導にあたっては、相手意識をもって福岡を魅力的に伝える内容についてベネフィットを視点にして考えたり、オンライン上で相手に伝えることを意識しながら発話を工夫したりしようとする態度を養いたい。そのためにまず、紹介する福岡の魅力を決定させる。ここでは、オリジナルの紹介内容を考えさせるために、ALTが福岡の魅力を語る動画を提示し、それ以外の魅力は何かを問う。次に、地元福岡の魅力を紹介するための原稿を作成させる。ここでは、地元福岡の魅力をより伝える必要性に気付かせるために、ベネフィットがある商品紹介とない商品紹介の例文を提示し、どちらの商品紹介が良いかとその理由を問う。また、各々の表現を練り合う活動にさせるために、班員の表現だけを共有し、「その表現に書きかえた意図」を言い合い、「魅力的にさらに伝えるための方策」について話し合うよう指示する。さらに、地元福岡の魅力について紹介させる。ここでは、相手を意識できる練習をさせるために、オンライン上で紹介し合う場を設定し、アイコンタクトや間についてのアドバイスをしよう指示する。最後に、地元福岡の魅力を紹介する活動の成果と課題を見直させる。ここでは、本題材での学習内容や成果を正確に振り返らすために、本題材の学びのデータを確認させ、本題材での学びと成果は何かを問う。

3 目標

- 関係代名詞を用いた文の構造や働きを把握し、場所や食べ物について、それらの詳細な内容を整理しながら関係代名詞を用いて説明することができる。
- 福岡の魅力を知り、自分の地元に興味をもってもらうために、話す表現を工夫しながら事実や自分の考えを整理して、ベネフィットをふまえて地元福岡の魅力について伝えることができる。
- 福岡の魅力を知り、自分の地元に興味をもってもらうために、質問しながら伝える内容を整理して、相手の情報量に合わせて地元福岡の魅力について伝えようとしている。

4 計 画 (1 1 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価規準
一	2	<p>学習課題 Please introduce attractions of Fukuoka to people from Cebu Island!</p> <p>1 紹介する福岡の魅力を決定する。 (1) 福岡の紹介する内容について話し合う。 ・地元福岡の魅力 (2) 地元福岡の魅力について話し合う。 ・外国人から見た福岡の魅力</p>	<p>○ 学習課題に対しての個別の目標をたてさせるために前年度の振り返りのデータを確認させ、前題材でた課題を問う。 ○ オリジナルの紹介内容を考えさせるために、ALT が福岡の魅力を語る動画を提示し、それ以外の魅力は何かを問う。</p>	<p>態：前年度の課題をふまえた目標をたてようとしたり、地元福岡の魅力を知ってもらうために、地元の人しか知らない魅力を紹介内容にしようとしたりしている。</p>
二	5	<p>2 地元福岡の魅力を紹介するための原稿を作成する。 (1) 地元福岡を紹介する概要についての文を作成する。 ・関係代名詞の用法, 使用方法 (2) 地元福岡の魅力についての文を作成する。 ・関係代名詞を使っての魅力を伝え方 (3) 原稿に質問を付加する。 ・相手に合わせた質問の有用性 (4) 作成した原稿を付加修正する。 ・相手により魅力を伝えるための方略</p>	<p>○ 福岡の場所や食べ物の詳細を説明する時の関係代名詞の使用方法を把握させるために、福岡観光ガイドブック英語版を提示する。 ○ 関係代名詞を使っての魅力の伝え方に気付かせるために、パターンプラクティスを設定し、例文の目的・場面・状況を問う。 ○ 紹介内容がより伝わりやすくするための質問を作成するために、紹介相手の情報を提示する。 ○ 福岡の魅力をより伝える必要性に気付かせるために、ベネフィットがある商品紹介とない商品紹介の例文を提示し、どちらの商品紹介が良いかとその理由を問う。</p>	<p>知：地元福岡について、関係代名詞を使って用いて、おすすめ場所や食べ物の詳細についての文を作成することができる。</p>
	本時	<p>(5) 修正した原稿をグループで練り合う。 ・紹介内容のベネフィットを説明する有用性</p>	<p>○ 各々の表現を練り合う活動にさせるために、班員の表現だけを共有し、「その表現に書きかえた意図」を言い合い、「魅力的にさらに伝えるための方略」について話し合うよう指示する。</p>	<p>思：相手により魅力的に地元福岡について伝えるために、できること、感じたことを表現したり、相手に合わせた質問を用いたりして、まとまりのある文章を作成することができる。</p>
三	3	<p>3 地元福岡の魅力について紹介する。 (1) 地元福岡魅力の紹介を練習する。 ・正確な発音やアクセント, リンキング, 区切り (2) 相手を意識して地元福岡魅力の紹介を練習する。 ・リモートでのアイコンタクトや発話方法 (3) 地元福岡の魅力を紹介する。 ・海外の人と地元の魅力について会話することの有用性</p>	<p>○ 練習の成果や課題を客観的に気付かせるために、練習前と練習後それぞれの発話の様子を撮影させ、2つの動画を比較する場面を設定し、練習前と練習後の違いを問う。 ○ 相手を意識できる練習をさせるために、オンライン上で紹介し合う場を設定し、アイコンタクトや間についてのアドバイスをしよう指示する。 ○ 地元福岡の魅力について伝えることができたかを確認させるために、紹介後、相手が紹介を聞いての感想を伝える場を設定する。</p>	<p>態：地元福岡に興味をもってもらうために、質問しながら事実や自分の考えを整理して、相手の情報量に合わせて地元福岡の魅力について伝えようとしている。</p> <p>思：地元福岡に興味をもってもらうために、話す表現を工夫しながら事実や自分の考えを整理して、ベネフィットをふまえて地元福岡の魅力について伝えることができる。</p>
四	1	<p>4 地元福岡の魅力を紹介する活動の成果と課題を見直す。 ・地元の魅力を海外に発信する価値 ・今後の言語活動に向けての本題材の成果と課題</p>	<p>○ 本題材での学習内容や成果を正確に振り返らすために、本題材の学びのデータを確認させ、本題材での学びと成果は何かを問う。</p>	<p>態：本題材の学習やパフォーマンスをふまえた本題材の価値や成果と課題を見出し、次題材の学習につなげようとしている。</p>

5 本 時 令和4年11月10日(木) 第3校時 計画 第二次の5 3年3組教室にて

(1) 主 眼

- 福岡の魅力を紹介する文を小集団で練り合い，付加修正する活動を通して，相手に福岡をより魅力的に伝えるために紹介するもののベネフィットを説明する有用性を把握することができる。

(2) 準 備

- ①前時に生徒が修正した原稿の一覧 ②福岡観光ガイドブック ③生徒が修正した秀逸な原稿

(3) 過 程

I・・・コンフリクト II・・・内化1 III・・・外化(内化2) IV・・・リフレクション

学習活動・内容	準備	段階	主な手だて (○) 評価 (◇)	形態	配時
<p>1 前時に修正した原稿の内容について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より魅力的に伝えるための工夫 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Today's Goal Let's make more attractive script in the group!</p> </div>	①	II	○ 表現を練り合う活動の必要性に気付かせるために，前時に集約した生徒の書き換えた原稿をいくつか引用し，福岡をより魅力的に伝えるための工夫がたくさんあることを提示する。	一斉	5
<p>2 小集団で修正した原稿を練り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベネフィットを説明する方略やその表現 ・ You can eat the shaved ice which is fluffy and soft like cotton and feel cool air when you go there in summer. 	②	III	○ 各々の表現を練り合う活動にさせるために，班員の表現だけを共有し，「その表現に書きかえた意図」を言い合い，「魅力的にさらに伝えるための方策」について話し合うよう指示する。 ○ 福岡の魅力がより伝わる原稿にするためのアドバイスをさせやすくするために，オンライン上に共有した全生徒の修正原稿を参考にするよう指示する。	個	20
<p>3 原稿を付加修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベネフィットを説明する方略やその表現の活用方法 ・ This restaurant isn't known well. So, you can eat delicious dishes without waiting. 	③	III	○ 福岡をより魅力的に伝える原稿にさせる視点にさらに気付かせるために，全体に秀逸な生徒の表現の中を提示したり，価値付けをしたりし，再度原稿を付加修正するよう指示する。	一斉 ↓ 個	10
<p>4 付加修正した原稿を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベネフィットを説明することの有用性 		IV	○ 修正前の原稿と修正後の原稿の変容に気付かせるために，修正した原稿で「自分の原稿をどのように書き換えたか。」と「書き換えたことよっての効果は何か」を問う。 ◇ 助動詞 can や知覚動詞 feel 等を用いて相手ができることや感じられることを表現することを視点として自分の原稿を見直すことができたか。 <学習プリント分析>	一斉 ↓ 個	15